

第1部「地域の見守りで高齢者等を熱中症から守る」

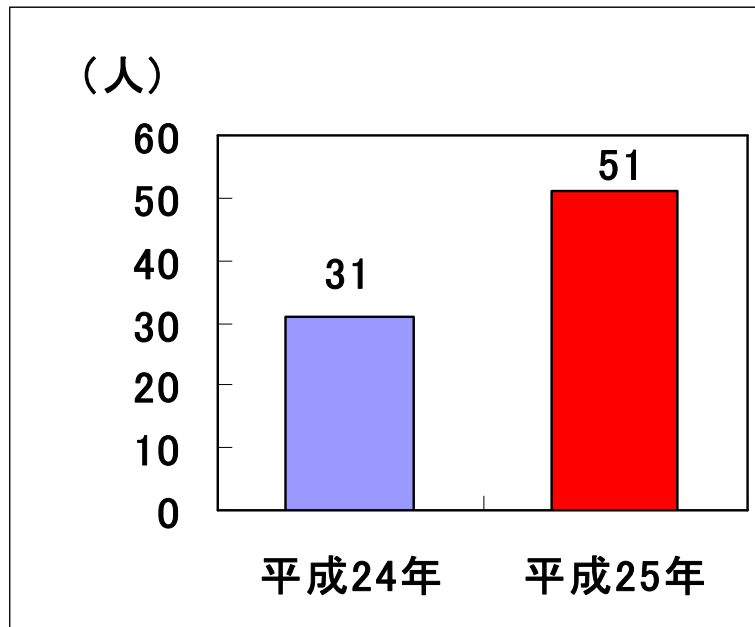
都内区市町村における熱中症予防の 見守り活動について

東京都福祉保健局高齢社会対策部
在宅支援課長 新田 裕人

都内熱中症をめぐる状況

急増する熱中症死亡者

○都内(23区)の熱中症死亡者



今夏は猛暑日が続いたことにより、熱中症による死亡者数は、7月で既に昨年度を上回る

注：平成25年の数値は平成25年7月31日現在

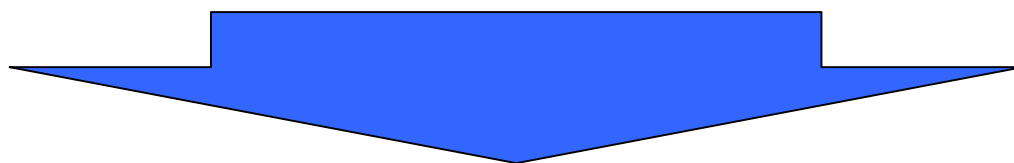
(出典：東京都監察医務院)

都内熱中症をめぐる状況

死亡者数の約9割が高齢者(平成25年7月現在)

- ◆熱中症死亡者の約9割が65歳以上高齢者
- ◆死亡者のうち、1人暮らしの方が約6割

(出典：東京都監察医務院)



高齢者に対する熱中症対策の強化

各地域で様々な熱中症対策がおこなわれているが、さらなる対策の強化が必要

熱中症予防の見守り活動で留意すべきこと

○熱中症予防に関する知識が不可欠

- ➡ 保健師との同行、もしくは事前の熱中症に関する研修の実施により、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯などへの戸別訪問の際に、熱中症の正しい知識（適切な室温設定、予防法等）を伝える

○経口補水飲料、ネッククーラーなどの熱中症予防グッズを持参して戸別訪問する等、実効性ある熱中症対策とする工夫が必要

- ➡ グッズ持参の訪問は、熱中症予防のみならず、対応拒否の人がドアを開けてくれるきっかけにもなり有効

○福祉・保健・住宅等の区市町村関係部署と連携してリスクのある方をもれなく支援

医療保健政策区市町村包括補助事業

高齢者を熱中症等から守る 区市町村支援事業

事業創設の経緯

- ・ 東日本大震災の影響による節電等により、高齢者の熱中症リスクが高まることから、「東京緊急対策2011」において事業を開始し、熱中症予防に取り組む区市町村を支援
- ・ 平成24年度からは「医療保健政策区市町村包括補助事業」として実施

高齢者を熱中症等から守る区市町村支援事業

事業内容

① 熱中症予防担当者による戸別訪問等の実施

- 保健師、もしくは、（研修等により）熱中症に関する基礎知識を持った民生・児童委員、自治会・町会、地域包括支援センター職員等による戸別訪問
- 訪問は、一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯（日中独居を含む）を中心に行い、見守りを行うとともに、熱中症の正しい知識（適切な室温設定、予防法等）を伝える 等

高齢者を熱中症等から守る区市町村支援事業

② 猛暑避難場所（シェルター）の設置

- 商店街の空き店舗や公民館等を、日中猛暑時の「避難場所」として活用することで、熱中症予防と節電効果を狙う

③ 普及啓発 （ちらし・予防啓発グッズの配布等）

- 熱中症予防及び停電時の注意事項を記載したちらしの配布
- 熱中症予防グッズ（首に巻く冷却用ベルト等）の配布 等

高齢者を熱中症等から守る区市町村支援事業

補助基準額

- 65歳以上人口により
5百万円～15百万円／1区市町村
- シルバー交番を活用する場合、1か所百万円
上乘せ

【事業に関するお問い合わせ】

東京都福祉保健局高齢社会対策部
在宅支援課在宅支援係 原田・飯塚
TEL 03(5320)4271

熱中症対策でも日頃の見守り活動が 大きな力を発揮する

○地域の様々な見守りの担い手によるネットワークの構築

〔 地域包括支援センター、シルバー交番、
民生・児童委員、町会・自治会、管理組合 等 〕

○高齢者等を「緩やかに見守る」中で異変への
早期の気付き

○戸別訪問による注意喚起 等

等

「高齢者等の見守りガイドブック」の作成及び 「見守りサポーター養成研修」の実施

見守り関係者会議の開催・「ガイドブック」の作成（24年度）

- 地域全体で高齢者を支える見守りネットワークの構築に向けて「区市町村の高齢者見守り体制充実に向けた関係者会議」を設置
- 区市町村、地域包括支援センター、シルバー交番、関係団体、地域住民が充実した見守り活動が行えるよう、具体的な事例を交えて解説した「高齢者等の見守りガイドブック」を作成

見守り体制のさらなる充実のため



「見守りサポーター養成研修事業」の実施(25年度新規事業)

- 地域で緩やかな見守りを行うことで、高齢者等の異変に早期に気付き、地域包括支援センターやシルバー交番に「つなぐ(相談・連絡する)」役割を担う人材を育成・確保するため、地域住民を対象に、ガイドブックを活用した研修を実施する区市町村を支援する。
- 東京都高齢社会対策区市町村包括補助事業の先駆的事業として実施

**区市町村における
熱中症予防の見守り活動
取組事例紹介**

武蔵村山市 介護予防いきいき元気お助け隊事業

○地域の住民から見守りの担い手を募集し、熱中症予防及び介護予防等の研修により人材を育成
(24年度38名、25年度30名)

○熱中症予防の普及啓発及び見守りのため、高齢者宅へ戸別訪問を行う



介護予防いきいき元気お助け隊事業

- 対象者 75歳以上の高齢者宅（6,300世帯）
- 活動期間 5～7月
- 配布物
 - ・熱中症予防パンフレット
 - ・救急医療情報キット
 - ・地域包括支援センターの案内



介護予防いきいき元気お助け隊事業

事業実施の効果

熱中症予防や介護予防の知識を身につけたお助け隊が高齢者宅を戸別訪問することにより、緊急時の情報提供、高齢者の熱中症対策、高齢者の見守り、要支援者の発見等が可能となり、

○市民の安心安全な生活の維持

○地域で支える仕組みづくり

につながっている

世田谷区

「お休み処」の設置

「せたがや涼風マップ」の作成

○お休み処の設置(約220ヶ所)

区内の公共施設、高齢者施設、教育センター、調剤薬局、商店街のまちのステーション等へのぼり旗や垂れ幕、イスを設置し、ウォーターサーバによる飲料水を提供



お休み処 (設置数約220ヶ所)



せたがや涼風マップ



北沢地域版 お休み処マップ

区では、公共施設等で気軽にお休みできるよう、「お休み処」を設置しています。「お休み処」では、休憩ができて冷水を飲むことができます。外出された際には、ぜひ「お休み処」をご利用ください。

公共施設等(個)

施設名	住所
北沢総合支所	北沢2-8-10
北沢健康福祉センター	松原6-3-5
梅丘まちづくりセンター	梅丘1-6-16
代田まちづくりセンター	代田3-2-7-3
新代田まちづくりセンター	羽根木1-6-14
松原まちづくりセンター	松原2-1-7-36
松沢まちづくりセンター	赤塚5-3-1-5
北沢地区会館	北沢3-3-1-0
代田地区会館	代田5-8-1-9

まちのステーション(個)

施設名	住所
① たまでんカフェ山下	豊徳寺1-4-5 世田谷山下駅構内
② シモキタオープンバースション	北沢2-3-7-17
③ しもたがステーション	松原3-3-0-12

高齢者施設(個)

施設名	住所
① 厚生会館	豊徳寺2-28-3
② きたざわ苑	北沢5-2-4-18

接骨院(個)

施設名	住所
① 依藤代田接骨院	代田6-3-2-1
② よした接骨院	大塚2-1-7-13
③ 市原海堂接骨院	北沢3-2-1-5
④ 東松原名倉堂接骨院	北沢5-2-7-1 ロイヤルビル1F2号室
⑤ いまい接骨院	赤塚4-3-6-2-3 田辺ビル1F

○お休み処の開設時間は各施設等の開放または営業時間です。

「お休み処」及び、高齢者や乳幼児をもつ保護者が涼みながら気軽に参加できる事業、イベント、施設などの情報を盛り込んだ携帯マップ

国立市 「緊急一時避難所」の設置

- 市の主な施設に加え、商工会加盟のコンビニ、金融機関等に「緊急一時避難所」の提供の協力を依頼
- 協力店には、のぼりやステッカーを設置（設置数約150ヶ所）



品川区：扇風機貸し出し

居宅内にクーラー等の空調機器の無い場合や熱中症にかかりやすい在宅高齢者へ無償貸与

調布市：熱中症予防カードの配布



※相対湿度60%の場合。湿度が高くなるほど危険域は広くなります。日常生活における熱中症予防指針

八王子市 シルバーふらっと相談室館ヶ丘(シルバー交番) 館ヶ丘団地おむすび計画

<ポスター>

おむすび計画とは

- 高齢者の熱中症予防を目的とした地域支援活動
- 学生ボランティアをはじめ、地域住民による高齢者宅への戸別訪問等の活動を行う
- 参加者には昼食に「おむすび」を提供

活動を通して団地内で
人と人との輪がむすぼれる

館ヶ丘団地 熱中症予防事業

館ヶ丘団地 おむすび計画

参加者募集!!

今年も
やりますよ!

開催期間

8月1日(木)~8月31日(土)

お問合せ
八王子市シルバーふらっと相談室館ヶ丘
電話 042-665-3800 Fax 042-665-3801

事業内容



- ①高齡者宅への戸別訪問
熱中症の注意喚起及びアンケートによる実態把握調査（平成24年度：対象者317名のうち188名回収）
- ②給水所設置
団地内に給水所を設置し、麦茶を高齡者へ配る
- ③商店街各店に協力の呼びかけ
商店街各店舗に熱中症対策への協力
- ④地域住民による参加者の昼食（おむすび）作り
※使用するお米は団地内外からの寄付
- ⑤夏祭りの実施支援
商店街主催夏祭りの実施支援

平成23年度熱中症予防事業 戸別訪問の様子



お母さんたちが主役の
おむすび作りの様子



給水所で談笑するボランティアスタッフ
と地域住民の皆さん



館ヶ丘団地おむすび計画

24年度の活動状況

- お米の寄付は、延べ53の個人及び事業所から150kgにも上るお米が集まる
- ボランティアは、下は3歳から上は87歳の幅広い年代が団地内外から参加し、学生をはじめ、一般参加者、高校生、中学生、小学生、未就学児の延べ84名が関わる

学生ボランティアが中心となって行う戸別訪問や給水所の運営を主体とした高齢者支援活動にとどまらず、子どもから大人まで幅広い世代が参加しての地域活動につながっている

**シルバー交番が地域の互助活動を
コーディネート**